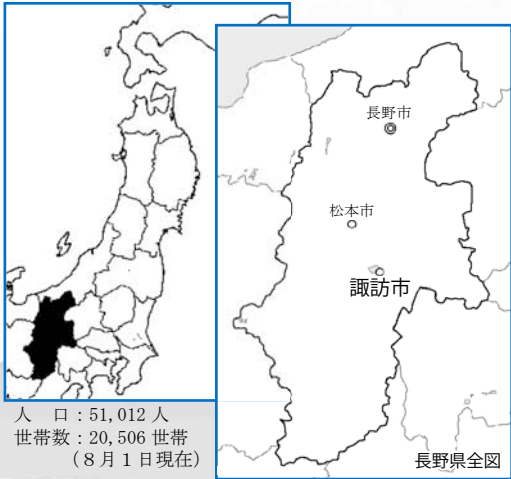


すわ 諏訪ってこんなまち

参考：「諏訪市勢要覧」



▲やまだかつふみ
山田勝文 諏訪市長

「厚別の発展に諏訪人が貢献できたことをうれしく誇りに思います。そんな関係で交流ができればいいですね。」



写真：厚別区所蔵

諏訪大社 (写真は上社本宮)

日本最古の神社の一つ。全国に1万社余りある諏訪神社の総本社。勇壮な「木落とし」などで有名な「御柱祭」は、7年に1度行われる。信濃神社(厚別中央4の3)や札幌諏訪神社(東区北12東1)には、ここ諏訪大社の御分霊が祭られている。

【歴史】古来、建御名方神の子孫・諏訪大祝家が治めた。戦国時代、武田信玄の統治下に置かれ、その後豊臣秀吉の家臣・日根野織部正高吉の領地となる。江戸時代には再び諏訪氏(高島藩)の領地に。1941(昭和16)年に市制を施行し、今年8月で70周年を迎えた。

【産業】日本酒・しょうゆ・みそなどの醸造業が古くから営まれ、大正から昭和初期にかけては製糸業でその名を高めた。戦後は、精密工業都市として急速に発展し、近年では特に超精密・超微細加工など特色ある先端技術の開発が進められている。

【交通】最寄りの信州まつもと空港へは新千歳空港から95分。空港連絡バスとJR(特急)を乗り継いで、JR上諏訪駅まで約1時間。

姉妹都市交流

諏訪市の姉妹都市の一つに長崎県壱岐市がある。松尾芭蕉の弟子・河合曾良(諏訪出身。「奥の細道」に随行した)の最期の地が長崎県勝本町(現壱岐市)という縁で交流が始まった。曾良のめいと結婚した河西周徳らが中心となり、曾良を顕彰する俳句大会へ相互に投句するなどの交流を続け、1989(平成元)年に勝本町で開催された「曾良翁280回忌俳句大会」に合わせて諏訪市の文化団体関係者が同町を訪れたことを契機に、文化活動を中心とした市民の交流が盛んになった。現在では、児童・生徒の派遣や「諏訪よいてこ」(毎年7月下旬に開催される市民まつり)での壱岐市物産展の開催など、両市間の交流は俳句を軸にしながら多方面に広がっている。



もり やつね お
▲守矢常夫さん
(諏訪市俳句連盟会長)

「俳句を軸に壱岐市との交流を続けています」

「歴史」がたぐ厚別と諏訪

由造ら8人が移り住んだ現在のJR厚別駅周辺がある厚別中央地区では、古き厚別を知って今後のまちづくりに生かそうと、2008(平成20)年から民衆史を研究しています。その中心となる「厚別中央歴史の会」(松山瑞穂代表)が地域の古老へのインタビューや古文書を調べるなどしてまとめたのが「厚別中央人と歴史」。地区の歩みと思いが、郷土愛・隣人愛を大切に「信濃魂」によって綴られています。▲

特集

諏

河西由造、金子藤重、小飼濱源造、藤森弥惣治、百明治16年、8人の諏訪人が彼らの、そして厚別のルーツ



◀昨年4月に発刊された「厚別中央 人と歴史」



▲諏訪市の隣町、辰野町で調査する「厚別中央歴史の会」メンバー